SONIC CITY

2026 SERIES

2:00pm, September 26th (SAT),
2026

157

ソニックシティ 2026シリーズ　第 157回さいたま定期演奏会
2026年 9月26日（土）午後2時開演／ソニックシティ　大ホール

日本フィルハーモニー交響楽団　第157回さいたま定期演奏会

ブルッフ

ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 op.26（約28分）

Max BRUCH:Concerto for Violin and Orchestra No.1 in G minor, op.26

～休憩(20分) ～

ベルリオーズ

幻想交響曲 op.14（約53分）

Hector BERLIOZ:Symphonie fantastique, op.14

指揮：**小林 研一郎**［桂冠名誉指揮者］

Conductor:KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

ヴァイオリン：**周防 亮介**

Violin:SUHO Ryosuke

コンサートマスター：**田野倉 雅秋**［日本フィル・ソロ・コンサートマスター］

Concertmaster:TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

管弦楽：**日本フィルハーモニー交響楽団**

Orchestra:Japan Philharmonic Orchestra(JPO)

ライブ配信：**神川町**

本日の公演は**メンバーズTVUチャンネルでライブ&アーカイブ配信**をしております。
３ヶ月間、何度でもご視聴いただけます。

主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター /さいたま市/公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県/埼玉県教育委員会/さいたま市教育委員会/埼玉県吹奏楽連盟

協賛

株式会社タムロン/ FVジャパン株式会社

表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校デザイン専攻科　秋山 あいな
作品名「宇宙」
作者コメント「オーケストラを宇宙に例え、演奏者の方々を宇宙に輝く星という形で表現しました。
宇宙と音楽に私が共通して思う、壮大で美しく、神秘的なイメージをコンセプトにしました。」

【アンケートのお願い】今後のソニックシティ主催公演参考のため、アンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方から抽選で3名様に本日の出演者小林研一郎氏と周防亮介氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)

▶本公演は最終楽曲が終了し、指揮棒が下りて以降は写真撮影が可能です（アンコールは除く）。撮影はスマートフォン・携帯電話をご使用いただき、自席にてご着席のままお願い致します。撮影時は周りのお客様へご配慮いただきますようお願い致します。


© テレビ朝日

指揮：小林 研一郎

東京藝術大学作曲科、及び指揮科の両科を卒業。1974年第１回ブタペスト国際指揮者コンクール第一位、及び特別賞を受賞。2002年プラハの春音楽祭では東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮して万雷の拍手を浴びた。

これまでにハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、アーネム・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、フランス国立放送フィル、ローマ･サンタ･チェチーリア国立管、ロンドン・フィル、ハンガリー放送響、N響、読響、日本フィル、都響等の名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。

ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章（同国で最高位）等、国内では旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

2005年､社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を続けている。

現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル・名古屋フィル・群響桂冠指揮者、読売日響特別客演指揮者、九響名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授等を務める。

公式ホームページ　https://maestro-kobaken.com/


©JUNICHIRO MATSUO

ヴァイオリン：周防 亮介

1995年京都府生まれ。７歳よりヴァイオリンを始め、2009年クロスター・シェーンタール国際コンクール第１位および特別賞、2010年ダヴィッド・オイストラフ国際コンクール最高位など受賞歴多数。2011年東京音楽コンクール第１位及び聴衆賞、2012年日本音楽コンクール第２位及び聴衆賞、2016年ヴィエニャフスキ国際コンクール入賞と輝かしい実績を重ねる。12歳で京都市交響楽団と共演して以来、国内外の主要オーケストラと共演し、幅広いレパートリーを展開。15歳で初リサイタルを開催し、清水和音や江口玲、上田晴子など第一線で活躍するピアニストとも共演を重ねている。録音活動も積極的に行い、2025年にはJ.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリン・パルティータ、無伴奏ヴァイオリン・ソナタをそれぞれリリースし、高い評価を得た。

2015年「出光音楽賞」、2016年「青山音楽新人賞」、2018年「大阪文化祭奨励賞」を受賞。2024年にはサントリーホールで一夜に３曲の協奏曲を演奏し、その果敢な挑戦が話題を呼んだ。これまでに岡本智紗子、岩谷悠子、小栗まち絵、大谷康子、原田幸一郎、神尾真由子各氏に師事。使用楽器は宗次コレクションより貸与されている1678年製ニコロ・アマティ。

幻 ～理想の幻視　怪異への幻惑～

ブルッフ　ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 op.26

ブルッフ（1838-1920）は、今回演奏されるヴァイオリン協奏曲第１番や『コル・ニドライ』を除き、現在ではほぼ忘れ去られてしまった作曲家である。ただし生前の彼は、自他ともに認めるドイツ音楽の保守本流の継承者として有名であり、例えばリストに見られる音楽や、ワーグナーにきかれる派手なオーケストレーションには批判的だった。

そんなブルッフが、20歳代の後半に書き、彼の出世作となったのが当協奏曲である。しかもこの作品は、当時ヴァイオリン協奏曲…といおうか協奏曲全般にしばしば見られたスタイルとは対極をゆくものだった。つまり、独奏者が華麗な技を披露する一方で、オーケストラは伴奏者として引き立て役に回るのではない。独奏と管弦楽が一体となって堅固に曲を形作ってゆく、いわば交響曲的な協奏曲のあり方が志向された。しかも、３つの楽章が途切れなく演奏され、第１楽章が短調を基本とした深刻な楽想に貫かれるという、これも独奏者の腕自慢としての協奏曲とは異なるコンセプトに基づいている。

なおこの作品は、1866年に最初の版が初演されたものの、約２年にわたり改訂作業がおこなわれた（本日の演奏も、この改訂版に基づく）。一度完成した作品に満足せず、さらなる高みを目指す…。音楽上の立場こそ異なれ、これはベルリオーズ（彼はむしろリストやワーグナーの先駆者だった）とも共通する姿勢である。そしてベルリオーズもブルッフも、自分こそは19世紀の西洋音楽を切り開いたベートーヴェンの遺志を継いで作曲活動をおこなうのだ、という理想と自負を抱いていたのである。

ベルリオーズ　幻想交響曲 op.14

西洋音楽の革新者として知られるベートーヴェン。彼は例えば、演奏会の景気付けに取り上げられることの多かった交響曲を、演奏会のメインレパートリーに押し上げたり、あるいはそれを通じて「闘争を通じて勝利へ至る」といったメッセージ性を強烈に打ち出したりした。そんなベートーヴェンの姿勢は、その後に続く若手作曲家に大きな刺激を与えてゆく。

折しも、ベートーヴェン受容が進みつつあるフランスに生まれ育ったベルリオーズ（1803-69）もその１人だ。ただし1830年に書かれた彼にとっての最初の交響曲『幻想交響曲』は、ベートーヴェンの交響曲とは様々な点で異なる。特に、失恋の痛手から自殺を図った芸術家が見た奇怪な幻想を描く、という交響曲全体の骨子において。

これは、フランス革命によって市民が新たな社会を築ける希望があった時代を生きたベートーヴェンと、革命が破綻した時代に青春期を送ったベルリオーズの違いだろう。闘ったからといって素晴らしい未来が訪れるというわけではないという現実。それを悟った若きベルリオーズは、自らの実体験を通じた狂気めいた幻覚を交響曲のテーマとする。

そこで、日常ならざる要素＝幻想性をこれでもかと注ぎ込むべく、ベルリオーズはベートーヴェンの交響曲の上をゆく特大編成を当作品に要求した。結果、複数のハープやティンパニ、夥しい数の管楽器、そして鐘をはじめとする「飛び道具」までもが総動員され、音色や強弱の違いを否応なく際立たせた斬新な交響曲が誕生した。（またそうした斬新さゆえ、この作品は誕生から四半世紀を経た1855年に至るまで、繰り返し改訂の手が加えられた。）

しかも、市民が一丸となって新しい世界を作ろう＝説明されなくてもそうしたメッセージを音楽に聴きとろう！という時代が過ぎたこともベルリオーズは知っていた。というわけで彼は、音楽のみならず、物語＝標題を用いて、聴き手を自らの世界に引きずり込む。ベートーヴェンとは異なる新たな交響曲誕生の瞬間である。

なおそれぞれの楽章には、以下のような標題が付けられている。第１楽章「夢、情熱」、第２楽章「舞踏会」、第３楽章「野の風景」、第４楽章「断頭台への行進」、第５楽章「魔女の饗宴の夢」。幻覚の中に浮かび上がる元恋人への情熱、彼女の姿を垣間見る舞踏会、彼女に対する嫉妬や不安、彼女を殺して自分も死刑になった結果、自分が魔女の宴に迷い込み、魔女となった恋人にいたぶられるという夢…。『幻想交響曲』の名のとおり、奇怪かつ奇抜な内容の物語となっている。

曲目解説：小宮正安

ダンスと音楽

ソニックシティでは2027年2月に「SONIC DANCE FESTIVAL」を開催します。この催しを踏まえ、2026年の日本フィルさいたま定期演奏会シリーズでは、「ダンスと音楽」をテーマにコラムをお届けします。

魔女はなぜ踊る？



『魔女の饗宴の踊り』
エミール・バヤール画　1870年

「彼は魔女の饗宴に迷い込む。周囲には葬儀をおこなうべく、亡霊、魔法使い、様々な化け物の一団が集まってくる。恐ろしげな音、うめき声、ケタケタ笑い、遠くからの叫び声に他の叫びがこだまする。愛する人のイメージが再び出現するが、そこには気品や優雅さはなく、醜悪で、野卑で、グロテスクな舞踏の音楽が始まる。彼女（「彼」が殺した恋人のこと）は魔女の饗宴にやって来たのだ。彼女が到着すると歓声が起こり、彼女も悪魔の饗宴に加わる。弔鐘、「怒りの日」のパロディ。魔女たちの輪舞に「怒りの日」が加わり、すべては混沌をきわめてゆく。」

これは、ベルリオーズが1855年に『幻想交響曲』を最後に改訂した際、第５楽章を説明した文章だ。曲目解説でも書いたが、彼はこの作品を何度も改訂し、その際、各楽章についての説明も様々な変更が加えられたが、1855年のバージョンがいわば「決定稿」となっている。このような具合に、細かな違いはあれど、第５楽章で魔女の舞踏が描かれていることは間違いない。

それにしても、『幻想交響曲』に限らず、文学でも絵画でも、演劇でも映画でも、魔女の行動の一つには、必ずといってよいほど「踊り」が含まれる。それはなぜか？

ヨーロッパでは、特にキリスト教が広まって以降、人間にとっては魂こそが重要であり、肉体はせいぜい数十年しかもたない儚い土の器にすぎない。まただからこそ、自らの身を華美に飾り立てたり、それを過度に動かしたりするということはよろしくない、という考え方が定着した。となると、祭りの際に着飾って、無礼講で踊るなどという真似は、道徳的に最悪のマナーになる。（もちろん、実際の社会では祭りや踊りが繰り広げられることはあったが、それは年に１度程度、教会への不満を人々が溜めないための、ガス抜きの機会に過ぎなかった。）

となると、社会通念から見ると踊りはタブー視されていたことが分かるだろう。そして魔女も、悪魔と契約し、社会的にはタブー視されている行為をおこなう象徴的存在として、人々の間でそのイメージが浸透していった。となれば、よく分かる。タブーに触れる踊りが、タブーの存在である魔女の、いわば専売特許となっていったことが。

文章：小宮正安

第157回さいたま定期演奏会に寄せて

この度は第157回さいたま定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回、ステージ左側には樹齢約80年のイワシデの盆栽をご用意いたしました。

幹が力強く立ち上がり、年月を重ねることで生まれた自然な幹肌と独特のうねりが樹に深い味わいを与えております。また、大地を捉える根張りは堂々とした佇まいを表しています。

イワシデは春の新緑から夏の深緑、そして秋には紅葉へと、一年を通して表情の変化を楽しむことができる落葉樹で、季節の移ろいを身近に感じさせます。

右側には、樹齢約180年の五葉松の盆栽をご用意いたしました。

力強く伸びた幹が長い年月風雪にさらされたかのような深い肌合いを見せ、古木ならではの風格が漂います。一方で、枝先には細やかで瑞々しい葉が密にまとまり、重厚な幹と繊細な葉姿が美しい均衡を保っています。

五葉松は、芽が展開する際に五枚一組の葉を持つことからその名が付けられ、古くから盆栽の代表的な樹種として親しまれてきました。

本作は時の流れと生命の力強さを表現した一鉢でございます。

オーケストラの演奏と、盆栽の景色の調和をお楽しみいただけましたら幸甚に存じます。

盆栽清香園　山田寅幸





JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

日本フィルハーモニー交響楽団



第415回名曲コンサート

2026年11月21日(土) 14:00開演
［13:20開場］

サントリーホール

14:00, Saturday, 21st November, 2026, at Suntory Hall

カーチュン・ウォン×ハフ、待望の「響」演



SIR STEPHEN HOUGH

ベートーヴェン：
ピアノ協奏曲第5番《皇帝》 変ホ長調 op.73

サン＝サーンス：
交響曲第3番《オルガン付き》 ハ短調 op.78

Ludwig van BEETHOVEN: Concerto for Piano and Orchestra No.5 "Emperor" in E-flat major, op.73
Camille SAINT-SAËNS: Symphony No.3 "Organ" in C-minor, op.78
Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor / Piano: Sir Stephen HOUGH

料 金（税込）

S席 9,500円 / A席 8,000円 / B席 7,000円 / C席 6,000円 / P席 4,500円 / Ys席（25歳以下） 2,500円 / Gs席（70歳以上） 6,000円

＊Ys席およびGs席は日本フィルでのみ扱います。S席以外から選べます。＊未就学児の入場はご遠慮ください。＊出演者、曲目等は変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。＊障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターまでお問い合わせください。＊車いすでご来場予定のお客様は、当日のスムーズなご案内のため、チケットご購入後ご購入席番を日本フィル・サービスセンターまでご連絡ください。

2026年7月23日（木） 発売

主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

託児サービス（事前申し込み制・有料。締切は公演の1週間前）
イベント託児"マザーズ" TEL:0120-788-222（平日10:00～17:00）

お申込み お問合せ

日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911［平日10:00～17:00］

eチケット♪ 席を選んでお申込みできます https://eticket.japanphil.or.jp

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
創立指揮者 渡邉暁雄

チケットぴあ https://w.pia.jp/t/japanphil/ e+［イープラス］ https://eplus.jp/
ローソンチケット https://l-tike.com Lコード：33262 サントリーホールチケットセンター TEL:0570-55-0017（休館日・年末年始を除く10:00～18:00）

TAMRON
Focus on the Future





光学の力で、社会を良くしていきます

私たちは「感動」と「安心」を届ける、総合光学メーカーです。

タムロンレンズは、大切な思い出を写真に残し、
日常生活の平和を見守り、「自動運転」の実現に寄与し、
内視鏡光学系で医療に貢献しています。





主な取扱い製品

ミラーレスカメラ用交換レンズ、一眼レフカメラ用交換レンズ、監視カメラ用レンズ、FA/マシンビジョン用レンズ、TV会議用レンズ、
カメラモジュール、車載カメラ用レンズ、ビデオカメラ用レンズ、デジタルカメラ用レンズ、ドローン用レンズ、医療用レンズ、
各種光学用デバイス部品　他

株式会社タムロン
〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
https://www.tamron.com/jp/